

氏名(本人) _____

(1)医療の希望 希望する「○」 希望しない「×」



②回復する見込みがあるが、寝たきりになる可能性が高い場合

②寝たきりの状態になった場合



話し合った日	(1回目)				(2回目)				(3回目)			
	令和	年	月	日	令和	年	月	日	令和	年	月	日
話し合った人(医療関係者・家族等)												
緊急連絡先・電話番号(家族等)	(続柄:)				(続柄:)				(続柄:)			
	A ①	A ②	B ①	B ②	A ①	A ②	B ①	B ②	A ①	A ②	B ①	B ②
選択肢1 生命維持のための最大限の治療を希望する。(心臓マッサージ、人工呼吸器など)												
■救命処置 心臓マッサージ 電気ショック 気管挿管 人工呼吸器												
気管切開												

	(1回目)				(2回目)				(3回目)			
	A ①	A ②	B ①	B ②	A ①	A ②	B ①	B ②	A ①	A ②	B ①	B ②
選択肢2 最大限の治療までは希望しないが、継続的な栄養補給は希望する。(胃ろう／経鼻経管栄養／中心静脈栄養など)												
  												
どの治療を選択するかは、主治医と相談してください。												
選択肢3 継続的栄養補給は希望しないが、点滴程度は希望する。												
												
選択肢4 延命治療は希望しないが、苦痛はとってほしい。												
その他希望の治療 ※具体的に記入(例:延命治療は行わない など)												

(2) 最期を迎える場所についての希望 病気や事故ではば回復する見込みがない場合、どこで過ごしたいですか？

最期まで自宅や家族の家	☐	☐	☐
できるだけ自宅で過ごし、最期は病院	☐	☐	☐
状況に応じて家と病院を使い分ける	☐	☐	☐
病院・ホスピス・老人ホーム	☐	☐	☐
その他	☐ ()	☐ ()	☐ ()



【豆知識】 延命治療とは

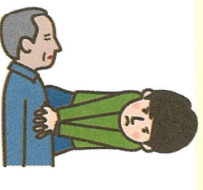


延命治療とは、その名の通り命を延ばすために治療をすることです。現代は医療技術が進んでおり、様々な治療を受けられるようになりました。病気になった際に投薬などの治療を施しますが、延命治療は栄養剤などを与えて死期をある程度引き延ばすための治療です。

● 不明な点がある時は、医師に十分な説明を受けてください ●

1 選択肢

生命維持のための最大限の治療を希望する。(心臓マッサージ、人工呼吸器など)



心臓マッサージ
(胸骨圧迫)

心臓の拍動が停止している場合に、胸のあたり（胸骨）を圧迫して心臓から血液をからだ中に送り出し、また心臓の拍動を再開させるために行う方法です。医療機関では心臓蘇生薬といわれる心臓の拍動の再開を促す薬が同時に使われます。



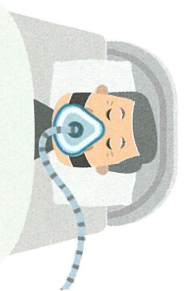
カウンターショック
(電気ショック)

電力を通して、不整脈を整脈に回復させる方法があります。心臓をはさむようにして電極を皮膚に貼り付けて、短時間に大きい電流を通電します。緊急の場合、一般の市民でも使用できるように自動化された“AED”という機器もあります。なお、多くの場合、心臓マッサージとカウンターショックは、組み合わせて行われます。



気管挿管

挿管チューブ（くだ）を、口もしくは鼻から気管まで入れて人工呼吸器につなぎます。苦痛を伴うため、鎮静薬である程度意識を下げたのち処置されます。なお、緊急の場合に行われる行為なので、長い期間、人工呼吸を行うことになれば気管切開が行われます。



人工呼吸器

脳死などで昏睡状態にあり、自分の力で呼吸ができない状態や肺機能の低下によって血液の酸素化が十分にできない状態などの時は、人工呼吸器を使って心肺機能を維持し延命させます。人工呼吸器を使えば生きる時間を長くできますが、人工呼吸器を外してしまうと命を絶ってしまうことになります。



気管切開

1～2週間を超えて、より長く人工呼吸器が必要な場合は、のどを切開して気管に穴を作り、そこに管を入れて人工呼吸器につながります。処置時の身体への負担や、慣れるまでの苦痛がある場合があります。

選択肢 2 最大限の治療までは希望しないが、継続的な栄養補給は希望する。(胃ろうなど)

胃ろう



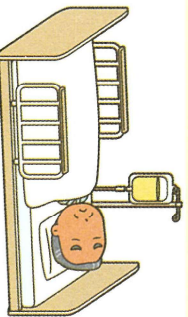
胃に直接栄養を補給します。お腹に小さな切り口を作って、胃までトネルの管を取り付けます。これを通じて胃に直接流動食を注入します。

経鼻経管栄養



鼻の穴からチューブを通して体内に栄養を注入します。短期間で嚥下障害が治りそうな患者に向いていますが、装着時には不快感や苦痛を伴うことがあります。胃ろうよりも短い期間で口からの栄養摂取ができると見込まれる場合に行います。

中心静脈栄養



何らかの病気や事故で長期間にわたり食事を口から摂取できない人や消化管がすでに機能していない人、今後の治療や療養のために体力低下を防がなければならない人に対して、体の中心に近い部分の太い血管に直接点滴をして栄養を補給する治療方法です。

選択肢 3 継続的栄養補給は希望しないが、点滴程度は希望する。

点滴



血管（静脈）を通して、水分や栄養分を補給します。なお、補給できるカロリーは微量のため、一般に長期に使用されません。

選択肢 4 延命治療は希望しないが、苦痛はとってほしい。

痛みは、ほとんどの場合、注射、飲み薬などですることができます。かかりつけ医と相談しながら、薬などを使ってコントロールしていきます。回復の見込みがある場合は除きます。治療に関しては医師と相談ください。

選択肢 5 《その他》延命治療は行わず、自然にゆたねる。

食べられない = 飢えの苦しみがありそうに思いますが、すべての身体の機能が弱ると、栄養分をあまり必要としなくなり、つらさは感じられないと言われています。

選択肢 6 《その他》重篤な脳障害を受け、回復する見込みがない場合は延命治療をしないでほしい。

事前に家族間で話し合い、自分の意思をしっかりと伝えておくことが重要です。

延命治療を望む、望まない、また、それに対しどのような治療を受けるかを決めるのはあなた自身です。どれを選ぶか、いざというときにすでに自分の意思が表せないことがあります。そのため、もしものときにどうしたいか、元気なときから考えて、自分の意思を表明しておくことが大切です。